

— 日報と工程管理表を有効活用、伸び悩む中堅社員の活躍を支援 —

リベラル株式会社



事業概要：中古OA機器リファイニング事業
従業員数：43名（令和7年1月現在）
サポーター：岩満さん（職場担当者）
被支援者：20代（知的障害）
勤続年数：10年（令和7年10月現在）
業務内容：電話機、コピー機の清掃

支援内容	取組み	日報と工程管理表の活用による、課題解決
	効果	持ち前の元気を発揮して、戦力として活躍できる

障害理解を深めたいという思いが、支援活動の出発点

リベラル株式会社は、法人向けのDX推進支援を主事業とするラディックス株式会社の特例子会社として2008年4月1日に設立されました。

サポーターの岩満さんは、2年前に関連会社から異動し業務課に着任しました。障害者と直接関わる業務ではありませんが、障害への理解が必要だと感じ、障害者の職場定着や戦力化に貢献したいという思いから職場内障害者サポーター事業に参加することにしました。

被支援者は中堅社員のAさんです。Aさんは能力を十分発揮できていない点があったので、岩満さんはAさんの活躍を期待して支援することにしました。

離席が多いというAさんの実態を把握、必要な支援をおこなう

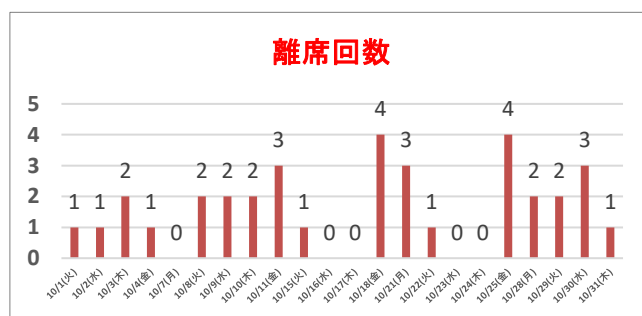
課題の一つは、Aさんが業務中によく離席するとチームメンバーから指摘があることです。Aさんは電話機と複合機の清掃を担当し、複合機はチームで作業しています。頻繁な離席が他メンバーの不満につながっていることから、岩満さんは離席頻度の具体的な回数を把握するため、記録することにしました。

養成講座で日報の有効性を学んだ岩崎さんは、サポーター支援員の助言も参考に、離席回数をシールで記録し、Aさんにも理由を説明し協力を依頼しました。Aさんには、日報に「作業中の水分補給・トイレ等で離席した回数」を1カ月間シールで記録してもらうことになりました。

<実際の日報>

1カ月間の調査結果では、Aさんの離席回数はメンバーの印象ほど多くありませんでした。話し合いで、Aさんはイライラや集中力の低下時に水分補給などで離席し、自分で気持ちをコントロールしていることが分かりました。岩満さんは調査結果とAさんの話をチームメンバーに説明し、理解を促しました。メンバーからは、Aさんが大きな声で「水飲めます」と言うため頻繁に離席しているように感じたという意見もありました。客観的な事実の共有で、メンバーの理解が深まり、Aさんの元気な声も前向きに受け止められるようになりました。

<実際の調査結果>





工程管理表に作業の標準時間を設定、 目標を共有して作業の効率化

二つ目の課題は、Aさんが複合機の清掃作業を自身のペースで進めるため、作業が遅く、他のメンバーの応援を待つ場面が見受けられるという指摘があったことです。

複合機の清掃は5人で分担し、すべてのパートが完了すると終了となり、終わった人がまだ作業の残っているメンバーの応援に回る体制です。

＜実際の作業風景＞



Aさんは工程管理表に従って作業し、電話機の清掃スキルにも問題はありませんでした。しかし、岩満さんはサポーター支援員から各作業パートの時間設定について問われた際、基準となる作業時間が設定されていないことに初めて気づきました。

岩満さんは、作業時間の共有による業務効率化とメンバーの積極的な応援参加を期待し、管理課主任に相談して清掃業務の各作業パートに標準時間を設けました。主任からは指導や評価がしやすくなると賛同を得て、協力してもらうことができました。

そして完成した工程管理表(図3参照)には、各作業パートごとの標準時間が明記されており、Aさんも作業

時間を意識するようになりました。その結果、Aさんは目標時間内に作業を終えられるよう努力するようになりました。また、標準時間をメンバー全員で共有したことで、メンバー同士が自然と助け合う雰囲気生まれました。

＜実際の工程管理表＞

工程管理表		目標時間	月	日	までに完成させる
作業内容	担当者	標準時間	作業時間	作業状況	作業完了
1. 電話機の清掃	Aさん	10分	10分	完了	完了
2. 複合機の清掃	Bさん	15分	15分	完了	完了
3. 複合機の清掃	Cさん	15分	15分	完了	完了
4. 複合機の清掃	Dさん	15分	15分	完了	完了
5. 複合機の清掃	Eさん	15分	15分	完了	完了

会社のイベントを通してAさんを理解、 コミュニケーションを深める

リベラルでは、働きやすい職場づくりの一環として、社員交流を目的としたイベントを開催しております。毎年、一泊二日の社員旅行、忘年会や年度打上げ会、さらに目標を達成した月には出前ランチ会を実施しています。

岩満さんは、イベントをAさんを理解する貴重な機会と捉え、積極的に参加しています。普段見られないAさんの一面を知ることができ、イベント準備では周囲をリードし活発に動き回るAさんの姿が印象的でした。岩満さんは、こうした長所を日々の業務にも発揮できるよう、今後指導していきたいと考えています。

今年は、バーベキュー大会も企画しており、Aさんの活躍を楽しみにしています。

岩満さん「思い込みを防ぐため、客観的に事実を可視化して共有」

職場の障害者と接する中で、少しでも役に立ちたいという思いが、サポーター活動を始めるきっかけとなりました。活動を通じて、思いだけではなく、基本的な知識やスキルが身につくことで、より効果的な定着支援につながることを実感しました。

今回、同僚から「Aさんは離席が多い」という声を受け、課題解決に向けて、まず実態の把握から取り組みました。調査を進める中で、その認識が思い込みによるものであったことを明らかにし、さら

に調査結果を共有することで互いの理解が深まったことは、大きな成果であったと感じています。

日頃の対話やデータの活用を通してコミュニケーションを深めていくことが、支援において必要不可欠であると感じています。

入社10年目のAさんが、明るさと元気を発揮し中堅社員として活躍されることは、会社の財産となり、ご本人の定着にもつながると信じて、今後も指導を続けてまいります。